THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

女學雜誌

驛遞局認可　明治十九年五月廿二日　毎土曜日發兌　第貳拾參號

此の繪の說明ハ本紙中ニ在り

The Engraving illustrated in another page.

東京京橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第二十二號目次

●官報●中外新報十七件●學藝叢談○理學一斑（前號の續）●カリー氏幼兒教育學の翻譯（前號の續）○西洋女禮一斑（前號の續）●英語の栞附羅馬字話し●列女傳○蘇小妹（表壽傳）○山內土佐守の夫人○春日局（前號の續）●和書講義○つれ〳〵草●稗史小說○西江月話（第五回）●女紅○ツールン氏西洋料理法の飜譯（前號の續）○裁縫○夏季醬油のかびを防ぐ法）西洋染形付およひ絹物を洗ふ法○頭髮を洗ふ水の製法●御伽草○鑑定違ひ○西洋隱語○謎●古今雜話○九月の蚊帳へ厂金を書き付ると○巨爐○舞蹈の心得●詳芳詞苑詩詠發句數件○閨秀新品○數學答式○新題○數學題

明治十九年五月廿二日

明治十九年 女學叢誌每土曜日發兌表

一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自廿一行至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自卅一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區內郵税不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に內規相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ○郵券代用ハ御斷り申上候萬一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割增を乞
郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替券を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎官報　本年五月十日

○文部省令第七号

教科用圖書撿定條例左の如く相定む

明治十九年五月十日　文部大臣　森　有禮

教科用圖書撿定條例

撿定要領

第一條　小學校師範學校若くハ中學校の教科用に充つるに足ると思考する所の圖書を有するものハ文部省に願出て其撿定を請ふことを得○第二條　文部省に於て撿查の上教科用に適すると認むるときハ免許證を下付し之を公告すへし○第三條　撿定を經たる圖書を教科用圖書として用ひ得へき年限ハ免許證下付の日附より起算して五箇年とす○第四條　前條の期限繼續を請はんとするものハ其滿期前に於て追願そるときハ更に撿查の上免許證を下付するとあるへし○第五條　第一條若くハ第四條により撿定を願ひ出るにハ(著譯編)者出版者連署の願書と共に該圖書及ひ其(著述、譯述、編纂)旨意書を添へ之に左の手數料を付して出そへし

一小學校教授用圖書　金十圓
一右追願　金三圓五十錢
一師範學校中學校教科用圖書　金二十圓
一右追願　金七圓

(以下次號)

◎中外新報

○行幸　去十八日ハ豫て仰出されし如く　聖上にハ午前九時三十分の御出門にて高等師範學校へ行幸あらせられ御陪乘ハ徳大寺侍從長供奉ハ伊藤宮内大臣吉井仝次官其他侍醫侍從等にて學校へ着御あるや校長の御先導にて暫時便殿へ御休憩あり校長教頭教諭幹事等ハ此の間に拜謁仰付られ畢つて教室寄宿舍及ひ体操銃劍術幼稚園等御通覽あり其順序ハ左の如くなりしと

○男兒小學八年級讀方小學師範學科生徒石原熊太郎七年級算術同宇川信三○女子小學八年級唱歌女子師範學科生徒杉山とし五年級博物同小林とし○男兒小學六年級圖畫小學師範學科生徒松原竹三○女子師範學科一級前期教授術訓導佐方鎭子三級後期和漢文御用係新保磐次四級後期算術助教諭上野銀子○

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女子師範生徒寄宿舍○女兒小學三年級珠算女子師範學科生徒押本よし○男兒小學三年級修身小學師範學科生徒稻垣乙丙○男兒師範學科二級後期化學敎諭中川謙次郎三級前期動物學同岩川友太郎理科甲部一年級敎育同福富孝季小學師範學科三級後期漢文同增田貢四級後期代數同野口保興二級前期物理同後藤牧太○男兒師範生徒寄宿舍○小學男女兒体操小學師範學科生徒岡辰次郎同久保田爲一郎女子師範生徒体操は用係田中盛業体操專修科生徒小隊運動生徒男兒師範生徒銃劍術生徒前体操專修生徒普通輕体操生徒後男子師範生徒柔軟体操生徒○幼稚園第三開誘室學き物女子師範學科生徒三輪よし第二開誘室修身の話同淺田とみ遊嬉室遊戲同一瀬ふさ

右行幸の節　聖上には左の勅語あらせられしやに承れる

本日親しく此校に臨み敎務改良諸事整理の緒に就くを見るは朕が甚だ嘉みする所なり敎官等の勉勵に因り將來益進步する所あらんことを望む

○皇后宮　皇后宮には去る十四日午後一時華族女學校へ行啓遊はされ加納欽敎場初等中學第三級書學科秋山四郎敎場上等小學第二級地理科森田勝敎場下等小學第二級實物科下田歌子敎場初等中等第一級脩身科等を御巡覽の上音樂敎場に於て琴敎師高野茂洋琴敎師奧好義遠山甲子授業の琴及び洋琴の演習を聞し召され夫より高野茂幷に生徒高崎芳子の琴庭の訓吉野の雪の新曲及び遠山甲子奧好義の洋琴ホーム、スイート、ホーム、ポルカ、カルトコアンの三曲をも聞召されし末午後四時ころ還御あらせられしとぞ

○御陪食　二品有栖川宮三品有栖川宮小松宮伏見宮の御息所三條伊藤松方大山諸大臣川村佐々木山尾の各宮中顧問井田北白川宮別當吉井樺山芳川青木の諸次官其の他將官等の夫人毛利鷹司二條の三公爵夫人佐竹侯爵夫人三條知惠子伊藤生子等の方々は去る十五日　皇后宮の濱離宮へ行啓の節召されて中嶋御茶屋に於て御陪食仰付られし由

○布哇國后年祭　來る廿五日は布哇國皇太后クインエムマの一週年祭に相當するを以て芝榮町なる該國公使館にては其祭典を執行せらるゝと云ふ

○小學敎員試驗　府廳に於ては去る廿日より第二期小學校敎員志願者の試驗を始められしと云へり

○建築中止　學習院の假建築は宮內省の內匠寮にて先頃已に着手されし處都合により此程中止されしとの事

○基督敎校の親睦會　英和一致學校東京英和學校の両生徒幷

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

びよ府下各區の基督教會信徒にハ上野公園内に於て去る十六日一大親睦會を催せしが中々の盛會なりしと云ふ

○生徒募集　高等師範學校にてハ九州四國筋より生徒數十名を募集せらるゝ由にて試驗官ハ近々該地方へ向け出發せらるゝ筈なりとか

○高等中學生徒帽章　今度制定されし高等中學校生徒の帽章ハ柏葉三葉を重ねて十字形とし其の中央圓圏の處へ一中の二字を記せらるゝ由

○伊太利書生　伊太利國政府にてハ我國の語學を修業せしめんが爲め一名の官費生を派遣せしめられ去る十六日已に來着したりと云ふ

○大學院學生　先きに法學士松岡郁之進文學士金井延同井上圓了理學士和田義睦仝箕作元八仝齋田功太郎仝澤井廉の七氏大學院學生を命せられしが今度また工科大學卒業生佐分利一嗣小川梅三郎田中泰董の三氏も仝學生を命せられたり

○婦人八千人の歎願　愛蘭コルク郡の貴婦人八千人程連署して愛蘭自治の議を非とするの歎願書を英國女皇陛下へ上りしが右の連名中一千人ハカソリック宗のものなりと四月七日付ダブリン府よりの報知よ見ゆる旨去る十二日發兌の時事新報よ記載したり

○日本讀書會第二年會　日本婦女子よして專ら學校へ入り修業する能ハざる者の爲めよ設けたる讀書會ハ米國人マコーレー氏等の周旋尽力になりたちしものにて去る十五日ハ其創立の第二周年に相當せしを以て木挽町の厚生館に盛んなる年會を開かれたるやに聞く

○近藤榮次郎氏　仝氏ハ去る十三年中自費を以て露國聖彼得堡に留學したるが此の程に至り仝國東洋語學校の教師よ雇ハれたる由

○畫帖奉獻　東洋繪畫會員にハ目今有名の畫家が丹精を凝らして揮毫せし畫帖二本を　聖上皇后宮の御手許まで奉獻せし趣

○東京教育博物館　同館ハ豫て增築し居られし陳列場も落成したれば歐米諸國より新に到着せし處の物品を陳列し去る廿日より開館せらるゝ筈にて其の觀覽料ハ日曜日を除く外大人二錢小兒一錢なりと云ふ

◎學藝叢談

（前號の續き）

○理學一斑

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

〔第二節〕原因と結果の事　かくのごとく「事」あるひも「物」といふは即ち前にいへる感覺の原因にして感覺もこの原因の結果なり譬へば囂々と響きのするを聞きたるとき是れは道路を馳する馬車の音ならんこれ即ちこの音も馬車が道路を馳するの「結果」なりといふことを知りたるなりまた物の薫るにはひする時この嗅ひも或るものが火の中にありて燒けたるの「結果」なりとして忽ち何ものゝ火中に入りたるにはひなるかを知らんとすべし是れその嗅ひの「原因」を知らんとするに外ならず若しまた庭前の樹木を見て其「物」たることを知るべしこの「物」即ち庭前の眺望中に現ずる樹木の「原因」なり

（以下次號）

○正誤

本紙第二十二號の本欄内第三百四十三丁の上段四行目炭素は窒素同六行目與なるは與ふるまた第三百四十四丁上段四行目指衝は刺衝同丁下段七行目知らさるものなりはものありの誤りなれば玆に正誤す

○カリー氏幼兒教育學の翻譯　（前號の續き）

〔第四節〕家庭教育と幼兒學校との關係　第一時期乃ち嬰兒期の教育を分ちてまた二期となすことを得べしその一期は家庭にての教育他の一期は幼兒學校に於て教育するの時期なりとすこの時期を定むるの習慣いまだ一定せすといへとも幼兒學校の教育は六歳と六箇月あるひは七歳までに終るものたること甚だ明かにして幼兒學校に入るゝの時は何歳なるやはいまだ一定せす教育の力も實に幼兒の年齢に相反し年齢の少きほど愈々外よりするの勢力に感じ易く三歳の小兒は六歳九歳の小兒よりも教化なし易きものなりとす斯く云へば二歳の小兒たりとも誰か我家に止めをくものあらんやまたその教師たるものも教育の委托を受くるや否やを決するに際り自らかゝる幼稚なる小兒を教導するに適せざることを知るといへども誰かろの受托を否まんや然れども幼兒學校に入るゝ時期の定限を知らんこと最も望ましきこととなるのみにあらすして教育の旨趣を達さるに於て甚た必要のことなり何となれば二歳の小兒も四歳あるひは六歳の小兒を取扱ふよりも必ず異なるところあれば二歳ばかりの小兒もいまだ知覺の働き充分ならすしてその言語も自らいもんと欲するところを云ふ能はず只身體を備へたりといふ位に過ぎずして尚ほ身體上の監督を必要となせりかくのごとき小兒を入るゝ學校は保育の場所にしてその監督者は教師にあらずたゞ保傅たるに過ぎざるのみ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

故に家庭と幼兒學校との敎育を混じ至當なる双方の監督をなさんとするは到底なし得べからずとの理由のみにても家庭と幼兒學校との敎育を別たざるを得ざるなりされば幼兒學校よ入るゝに最も適當なる年齡は四歲位にして必ず三歲六箇月より以下たるべからざるものゝごとしといふを得べきなり嬰兒の少し續きたる心の運動をなすに至り他人と結合するを得るに至る前幾分かの總念を有し幾分か外界に對する能力即ち知覺の用を知り幾分か言語よりて相互ひに交通するの力らを有せざるを得ず假へば眼は隔りを見耳は音聲を聞き分け手は物を持ち情緒は快樂と苦痛とを辨ずることに熟さゞるを得ず若しこれらのことなければ敎師たるものは意を通ずるの方法なくして家庭にあるには至極適當なれども衆兒の集りて成りたつところの幼兒學校よは適せざるの有樣なり三歲六箇月あるひは四歲に達したる幼兒は已に幼兒學校の仲間に交はるべき充分なる初等經驗の大本を得たれどもこの年齡より以下の嬰兒は言語を發し步行すること能はず敎師より示すところのものを辨ずること能はざれば一己別々の養育場にあらしめざるを得ずこれを嬰兒學校あるひは保育場と云ひ各々特別の裝置をなしあるものなり今この篇に論ずるところのものはこの種のものにあらずして幼兒學校のことに止まれり（以下次號）

○西洋女禮一斑　（前號の續き）

互ひに懇意なる友人の家に於て各々その友人を紹介するは妨げなしと雖もさる時は各々その家の婦人より紹介なさしむるを勝れりとなす

夜會に於て來會者を紹介することも當時殆んど廢れたりすべて友人の宅に出會したるものも固より相互ひに平等の地位にたつものたりと知るべし稀れに田舍などにて古風を守るものは我が家に來會せる賓客のうち後れ來りたるものを前きに來りたるものに紹介するの古風を今尙ほ保存せりこの習慣はいま遽かに廢すべからずといへども却て後れ來りたるものに不敬となることありすべて斯る場合に於て後れ到りたるものは歌舞者が舞臺にて聽衆に對しなすごとく半圓行禮（左方より目禮をなしつゝ右方に廻はり左右正面に對し同時に禮をなすを云ふ）をなし可及丈けの和氣を含みて禮容をなし一般を注視するを以て足れりとす

若し客室に入らんとするとき取次のものゝ誤ちにより正當の姓名を通ぜざりしか或は主人談話中にてその名を聞き漏らしたるなどのことありし時は直ちにその家の主婦に會ひいまだ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

懇親ならざるならば自ら紹介するも妨げなしかゝる時は可及簡單を主とし已が地位等は委しくすべからず（以下次號）

◎英語の栞 附羅馬字はなし

○泰西箴諺の直譯

（甲）㊀愛（が）㊁薄く㊂ある㊃所には㊄誤ち（が）㊅厚く㊆有

（乙）㊀何でも㊁汝（が）㊂能ふ㊃所（を）㊄得よ㊅何でも㊆汝が㊇持つ㊈所を㊉保てよ

（丙）㊀早く㊁名（を）㊂揚る㊃べく㊄得よ㊅而て㊆汝（は）㊇日（に）㊈於て㊉寢臺⑪に⑫横臥⑬得る

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

（甲） Faults are thick where love is thin.
㊄ ㊆ ㊅ ㊃ ㊀ ㊂ ㊁

〔意譯〕愛情の薄き所には誤ち厚し

（乙） Get what you can, keep what you have.
㊄ ㊀㊃ ㊁ ㊂ ㊉ ㊅㊈ ㊆ ㊇

〔意譯〕得る事は可及て得て所有せる物を棄ることと勿れ

（丙） Get a name to rise early and you may
㊄ ㊁ ㊃ ㊂ ㊀ ㊅ ㊆ ⑬
lie in bed at day.
⑫ ⑪ ㊉ ㊈ ㊇

〔意譯〕名を揚げる事を先きにせよ晝寢て暮らす事を得べし

MINASI-GO NO RISSIN.

Mukasi Igirisu ni, tosi no koro kokonotsu bakarinaru minasi-go ari. Hito no megumi wo ukete sono hi wo okurikeru. Aru hi sitateya no mise ni itari megumi wo koitaru ni, sono sitateya niwa ku-nin no sitate-shokunin orisi ga, ono-ono ichi-shilling zutsu wo idasite atae tari. Minasi-go wa ōini yorokobi, kono ku-shilling wo motode to nasi, kudamono wo kaite shosho wo uri aruki, sono rieki wo tsumi, tsuini, ōinaru kane-mochi to narikeri. Kono minasi-go tosiyorite, kaku yutakani kurasu koto wo uru wa kano ku-nin no megumi ni yoreri tote, tsuneni shappo no mae ni kinji nite, "*ku-nin no sitate-shokunin hitori no ningen wo tsukurisi*," to kakite kamurisi tozo.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

〇蘇小妹　（表書傳）

大約人生の最も愉快とする處ハ聰明の佳人にして俊才の美男に適き俊才の美男にして聰明の佳人を娶るに在りされども才貌兩から全きハ世間其人乏しくして才あれバ貌なく貌あれバ才なし故に人々色を好むの心より才を後にして貌を先にし往々佳人痴漢に從ひ才子獃女に伴ふの譏を免れず寧ろ貌なきも才あらば十分足るとを知るべし今爰に一個聰明の女子にして俊才なる丈夫に嫁きたる人あり卉ハ他に非す宋の時代四川眉州に蘇洵と云へる名儒あり老泉と號す二男一女を生めり男ハ則ち軾轍の二人にして兄弟倶に文經武緯の才博古通今の學あり其の名朝廷に重せられて就れも翰林學士の職に拜せしかバ此の父子三人を稱して天下三蘇とハ謂ひはやせり女ハ小妹と云ひまた是れ聰明絶世の聞えあり一を聞て十を知る其の十歳の折父兄に隨つて京都に登りたりしが寓所の庭よ繡毬花一株ありて時正に春なりしかバ花盛んに開き美麗云ハん方なきを老泉ハ打詠めつゝ詩を題して纔かに四句を寫し得たる折しも客來ありて筆を閣き客室に出て之れと應對なし居りしが小妹ハ其間に書房に來り父老泉の机上を見るに左の四句あり

天巧玲瓏玉一丘　迎眸爛熳總淸幽
白雲疑向枝間出　明月應從此處留

小妹ハ熟々覽畢りて這ハ是れ繡毬花を詠したるの句にして父の筆跡に疑ひなければ別に思ひも費さそ後の四句を續き成して其紙に寫し置けり

瓣々拆開蝴蝶翅　團々圍就水晶毬
假饒借得香風送　何羨梅花在隴頭

老泉ハ客を送つて復び書房に來り前韻を續き完ふせんとして只看れハ八句已に讀むに足るの詞なり筆跡ハ小妹の手なれば呼んで之を尋ぬるに果して違ハされバ老泉も大に歎息して若し此兒男子ならばまた制科中有名の人物たらんに惜ひ哉女子なりとてこれより愈よ珍愛を加へ自由に讀書せしめしかバ博學にして女子なりと云ふを得ざるの人物とハなれりさとば老泉も天晴天下の才子を選んで之れと配ハせんと心掛居りしに一日忽ち宰相王荊公老泉を府に請して之れと敍話せり此の王荊公と云へるハ諱を安石と稱し其の未た及第せさるの時より賢名ありしも平常面を洗ハそ衣を更す身上にハ虱數かぎりなく群り居りしかば老泉ハ其の人情に近からぬを惡ミ他日必ふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

す好臣とならんと辨奸論と云へるを作りて之を譏りしより荆公もいたく恨を懐きありしに後來軾轍の二子がしきりに及第するをもて遂に怨を含て奸を修め老泉も亦荆公の宰相を拜して二子進取の路を妨けんとを恐れ意を曲けて相交ハりしかば是の日も其の請待に應じて荆公の第に赴き時事を談じながらに酒を酌み覺えず十分の醉を發しにけり時に荆公ハ偶然小兒王雱が讀書に長たるとを云ひ出しを老泉ハ酒の上とて何の思慮もなく御子息も能く書を讀るゝか我が小女も亦能く讀みますと答へたりしを荆公ハ驚きたる態にて拙者これ迄御子息の大才あるとハ承知仕り居りしも未た令愛あるとを承知せざりき嗚呼眉山の秀氣ハ盡く公の家にぞ屬しけれと云ひたれば老泉もいたく其の失言を悔ひ忙ハしく暇を告けて立歸んとするに荆公ハこれ豚兒王雱が記せし處のものなれば何卒點定を願ふと一卷の文字を老泉に遞與せしゆゑ老泉ハ之を袖中に納めて家に回り睡て半夜に至る頃酒も醒めにければ前事を想起してかく點定を求るとハ必竟親を求るとの事なるべし彼の家との親事ハ我が願ふ所に非れども今更辞むの路もなく如何ハせんと沈吟しつ眠りもやらで曉に到れり　（以下次號）

○山内土佐守の夫人

山内土佐守一豊いまだ猪右衛門と云ひて織田信長の家に仕へたりし頃一個の伯樂安土に來りて東國第一の駿馬を鬻かんとすされども價の貴きが爲め誰れとて買ふ者なく空く牽き歸んとするを見て一豊ハいと惜きとに思ひつれども這も亦買ふべきの資力に乏しければ家に歸りて歎息し吁身の貧しき程世に口惜き事ハあらじ一豊奉公の初め天晴かゝる名馬に鞭ちて屋形の前に打出んものをと獨語つゝありけるを妻ハきゝて一豊に向ひ其の價ハいかばかりにやと問ふされば也黄金十兩との云ひつれと答へたれば妻ハ左程に思ひ賜ふ馬あらばよし求め給へ其の料ハ妾まいらせんとて鏡の筐の底よりして十枚を取出し一豊が前にぞ差出せり一豊ハ大に驚き此の年頃身貧くして苦しき事のみ多かりしに此金ありとも知らせ給ハす心強くも包み給ひしぞ今我れ此馬を得べしとハ思ひもよらざりきと一ハ悦ひ一ハ恨むを妻ハ仰せ理りにこそ候なりさりながら妾此家にまゐりし時父上この金を鏡の下に入れたまひて這ハ尋常のことよ用ゆべからそ丈夫の一大事とあらん時まゐらせよと戒しめたまひしかば心強くも畜へ侍りき然るに今回京都にて馬揃わるとか承ハりつれバ君の仕の初めと云ひ殊よハ天下の見物なれは名馬に召させまさんとて取出したれと云

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ひけり一豊も悦こび斜めならず直に其の馬を求め頓て馬揃のありし時打乗りて出しかば頗る信長の稱賛を得たりとなん其の後一豊石田三成の乱に家康公に從ひて關東に下りたる事あり妻は獨大阪に留まりしが其の間密かに書を一豊の許に贈り上國の事情を精しく報知せるに途中敵の爲めに獲られんとを恐るゝものから之を裂きて拈子を拵へ使者の被る笠紐となして致せしかば誰れとて知るものなく一豊は之を受けしまゝ故さらに解かずして家康公に献りしかば家康公もいたく其の深知あるを感稱し其志しによりて後には遂に土佐の高知に封ぜらるゝにまで至りたりと云へり吁人の妻たるもの此の夫人の如き心がけなくてやは

三百六十五

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○春日局　（前號續）

約そ女の裾長き衣裳を着けて其の裾の汚れたるは誠に見苦しきものなりされば福子は女中衆の小袖の裾を曳くを見咎め甲斐〳〵しく引わげてこそ宜しかるべし女の衣裳中にても白小袖の色うるみ御前へ出るに其汚れたる裾を長々しく曳くは見苦し又化粧も髪結ふことも夜明ての後なすものに非ず女の寝顔はいとすさまじければ朝寐して見られんは恥かしき事なりこは御奉公する者に限らず人の女房となるものも同様たるべし我等が夫は浪人にてありければ足袋等に至る迄自らさして與へしなり女の物縫ふとあらさるは手筒とて嫌はるることぞかしと万つに意を注ぎて躾けられれば女中衆の行儀も自然に正しくなりしと云へり寛永六年の十月福子は召されて參内し時の朝庭より西三條大納言實條卿の兄弟に准せられ御學問所に於て春日局の號を賜ひ天盃をも下賜りたり又仝九年には家光公の命を蒙りて東福門院を拜謁し緋袴着用を免せられ十七年には入洛して後水尾院仙洞女院へ饗膳を献じ奉り十八年の九月には家綱公誕生ありて初めて御家門の列侯へ御見謁の節之を抱き奉りし等其の重んせらるること一方ならず江戸代官町に宅地を賜ひ又相州吉岡に采地三千石と毎年七月に白銀百貫を下されにけり然りし程に寛永の廿年九月初旬よりして病に罹り今はたのみ少くなりければ女院御所よりは右衛門督局を御使として病を問せ給ひ家光公は自ら湯藥を嘗て薦らることなどいと懇ろに取扱はるると雖も局は一滴だも醫藥を服せず但しこは家光公の痘瘡を患られし折東照宮に己れ病ても藥を用ひざることを誓ひて其の本復を祈りたるに由ものにして遂に臨終までも固く執て服用せざりしとぞ仝九月十三日今を限と見たりければ家光公は枕頭に來りて我れ願あり日頃稲葉内記事は勘當なし居れは我前へも召出さぞされども最早年經たれは今は心底も直りつらん乳を分たる其方が子なれば我より面し勘當を免すべしと仰ありしを局は聲を勵し内記は不覺悟者不忠者と見極め勘當せしは全く君の御爲なれば愛に溺れ末期に至ても爭で君を忘れ奉るべき私相果し後とて御免ありて召仕れなば泉下より於て御怨奉るべし天下の將軍なぞは少も贔負ましまさぬこそ肝要なれ今は疾く還御あれと申せしかば家光公も涙ながら入御あり已よして翌十四日遂に六十五才にて終られたり法名は麟祥院仁淵了義と號し湯嶋天澤寺に葬られ將軍家よりは白銀三千枚米千俵を給ひ堀田加賀守正盛稲葉美濃守正則に命し厚く法會を修行せしめられしとぞ

（畢）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎和書講義

つれ〳〵草　　橘道守述

○第十二段下

たかひに。いはん程の事をは。げにと聞かひあるものから。いさゝかたがふ所も。あらん人こそ。我はさやは。思ふなんど。あらそひにくみ。さるからさぞとも。うちかたらはゝ。つれづれなぐさまめと思へど。げには。少しかこつ方も。我とひとしからざらん人は。大方のよしなしごとは。いはん程こそあらめ。まめやかの心の友には。はるかに隔たるところ。あるぞわびしきや。

〔全旨〕少し物爭ひをする程の友は。平常は慰みになれど。事ある時は。眞心なる人ならでは。力と頼みかたしとの意也。

〔語釋〕聞くかひある　聞たる詮ある也。詮の字。益の字を。かひとよめり。○さやは思ふ　左樣に思ふ事かは。左樣には思はぬぞの意也。さやはのやはゝ。反語とて。詞の理にかへる助辭なり。○あらそひにくみ　このにくみは。妬み憎むにはあらず。只少し爭ふ心なり。○さるからさぞ　左樣なるに依て。左樣なるぞと。理解し聞する體なり。○かこつ　白氏文集に。託の字をかこつとよめり。言の意は。借言する義にて。餘事にかこつけ云也。こゝは。面白き事。哀なる事に。かこつけ云の意なり。○ひとしからざらん　同しからぬ也○よしなしごと　無由事にて。さして深からぬ事なり。○まこゝろ眞心にて。實情ある意。○わびし　前號にも。聊の論ひ置たれど。猶云へし。さて此わびしを。加茂眞淵翁は。わびは。うらぶれの約れる也。といはれたれど。今按に。うらぶれは。物思ひある時。頂を垂れて。愁へ居る貌よりいへる也。このわびは。わだかまる。わづらふなどの。わにて。成す手も出ず。心の屈まり縮るより。いふ語なり。万葉集に。物思比和備居時。などいへるが如し。故に。窮る。又難義などの。意に用ひたり。されは。わび住。わび言などは。其理よく適へり。又茶湯の。數寄屋などを。わびたりといふは。賤のわび住を。擬したるの意なり。

〔講解〕互に言へき事を。尤と聞ながらも。少し異論ある人は。君は左樣よいはるれど。我は左樣には思はず。それは

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

如斯なりと。論し合ふハ。徒然となそ事もなき折にハ。慰ともなるべけれど。實ハ。かゝ付こぞの上にも。少し計りなりとも。異論あふん人ハ。並一通の事を。談り合ふ時ハ。慰みとなれとも。大事ある時ハ。我と齊しき。眞心なる友とちがひて。打わけてもいひがたく。又たのみにもありかたきにハ。さてゝゝこまることゝなとの意なり。此段ハ。畢竟。世にある人ハ伴ひかたし。獨燈下に。書を繙きて。我心に適ふ古人を。友とするにハしかしと。次段をかゝふんとていへる也。兼好法師ハ。南朝の間諜あらんと。れぼしき事あり。高師直の爲に。艶書をかきたるを。誹人あれど。こも又離間の計策なるべし。これによりて思へハ。此段ハ寓意あらんか。

◎稗史小説

西江月話　第五回

暫くありて衆人に伴ハれ舶の中に入來る人あり瑞虹顔を擡げて打見やれバ其人ハ面貌魁偉にして服飾もきらびやかに衆人の云ふを聞けバ如何にも身家ある人の如しやゝ近くまゝに頭を下げていと丁寧に一禮しければ其人ハ忙ハしく扶け起してさる丁寧なるお禮ハ恐れ入る旨を云ひいかなる事より斯ゝる難儀に遇れしや略の處ハ衆人より承ハりけれども今一應述られよと請ハれて又も瑞虹ハ一伍一什を說き聞かせ慈悲を垂れて我が難儀を救ひ給ハゝ死すとも大德ハ忘れまじと掌を合せて拜むにぞ其人ハ種々に慰めつ今より你と共々に裁判廳に訴へ出なバ强盜も遠からず縛に就くべし心強くも思ハれよと云ひつゝ衆人に分付て早く瑞虹を本船に扶乘せこの船の東西も皆搬び移せり知らす是れ如何なる人ぞ這ハ元來卞福と云ひて漢陽府の人なるが專ふ旅に出てゝ商賣をなし今ハ身代もいと有福なれば斯ゝる大船を造りて多くの水手を使ひ這度も貨物を積みて家に歸るの途中なりしが卞福ハ圖らずも瑞虹の美容を見て不良念を起し一片の假情をもて哄して我船へ誘ひしもこれ末にハ遊里に賣こかさん下心よして瑞虹の爲めに寃を伸へ枉を理するとハ全くの虛よてぞありけるされども瑞虹ハはじめ非常の慘毒を受けたれば訴を伸ふるに路なく纔に卞福を見て親戚にも逢ひたるの心地したれば具に其情實を告け卞福の言葉をもいたく信じて疑ハざりき兎角そる間に卞福ハ佳肴美酒を排着て瑞虹をいたハり你ハ噉な餓給ひしならんに些と酒食をバ食べ給と無理すゝめられて瑞虹ハ父母兄弟の事を思

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

へば聊か咽喉よも下らねど是非なく二盃を傾けたる處に卞福ハ徐々説き出して云ふ我れ少しく你に商議をるとあり你ハ聞入れ給ふ歟如何瑞虹云ふいかなる御商議かハ知らねど我身にかなふ事ならばと半ば云ハせずされバなり先刻ハ一時の義憤心より你と共々裁判廳に出てゝ訴へんとハ約したれども熟々思へバ此船の貨物日限あれバ其事適ハず依てこゝか你に商議の處なり你先つ我れよ隨ひて家に回り貨物をかたつけし後我れと共に一小船に乘りてこの地に來り告訴なしてハ如何ぞや思ふに告訴せしとてもまた急の間に強盜を獲る譯にもゆかざれば何れにしても歲月を費さゞる可らずさすれば你と我れ共よこれ孤男寡女にあなれば幾回の只二人よて往來せば必す世間の疑ひを崇るべし其時に至りて身の潔白を云譯あすとも誰かまことゝ信ずべき加之ならず你ハ別に眷屬もなく便りなき身の事なれば我か商家さえ嫌ハれずバ結んで夫婦となりし上十分の助けを得て仇を報ひんとハ思ハれざるかと聞て瑞虹ハ大に驚き一度ハ虎口を逃れ來てまたも不良の人に遇ひ世に我か身ほどおぢきなく苦しきものハあらざるべしと淚に袖を絞りつゝいかにもなして逃れんと思へど已に術中に落たる後にありければまた如何とも詮術なく只息つく〳〵沈吟して父母の仇こそ大事なれ身を辱しむるハこれ小事況んや已に賊にまで汚されたるの上からハ最早貞操も入らざる事寧ろ此の人に身を任せ難なく仇を報ひし後自害なしなば汚名ハ雪がんかばかりの小節にかゝつらふものかはと一決して卞福に向ひ淚を拂ふて官人誠に以て御心切難有こそ存するなれ此上なから報仇の事よしなに願ひまゐらすと答へを得たる卞福ハ喜ふこと限りなく乃ち水手どもに分付て其の夜前途の村岸に停泊し酒肉の類を購求めて喜び酒を酌みかハし絕て久しき慾界の快樂にこそハ耽りけれ

◎女紅

○ワールン氏西洋料理法の翻譯（前號の續き）

種々の心得　野菜類を撰ぶにハ可成新らしくしてなるべく若葉を撰ぶべきハ勿論のことにして馬鈴薯ハ夏季ハ核桃の葉のものを用ゐ冬季ハ新子を用ゆべし

また林檎ハなるべく重きものを撰ぶへし且つ形の小なるかハ大なる方得用なりこれ皮を取り小切りとなすときに當り捨る處すくなきが故なり

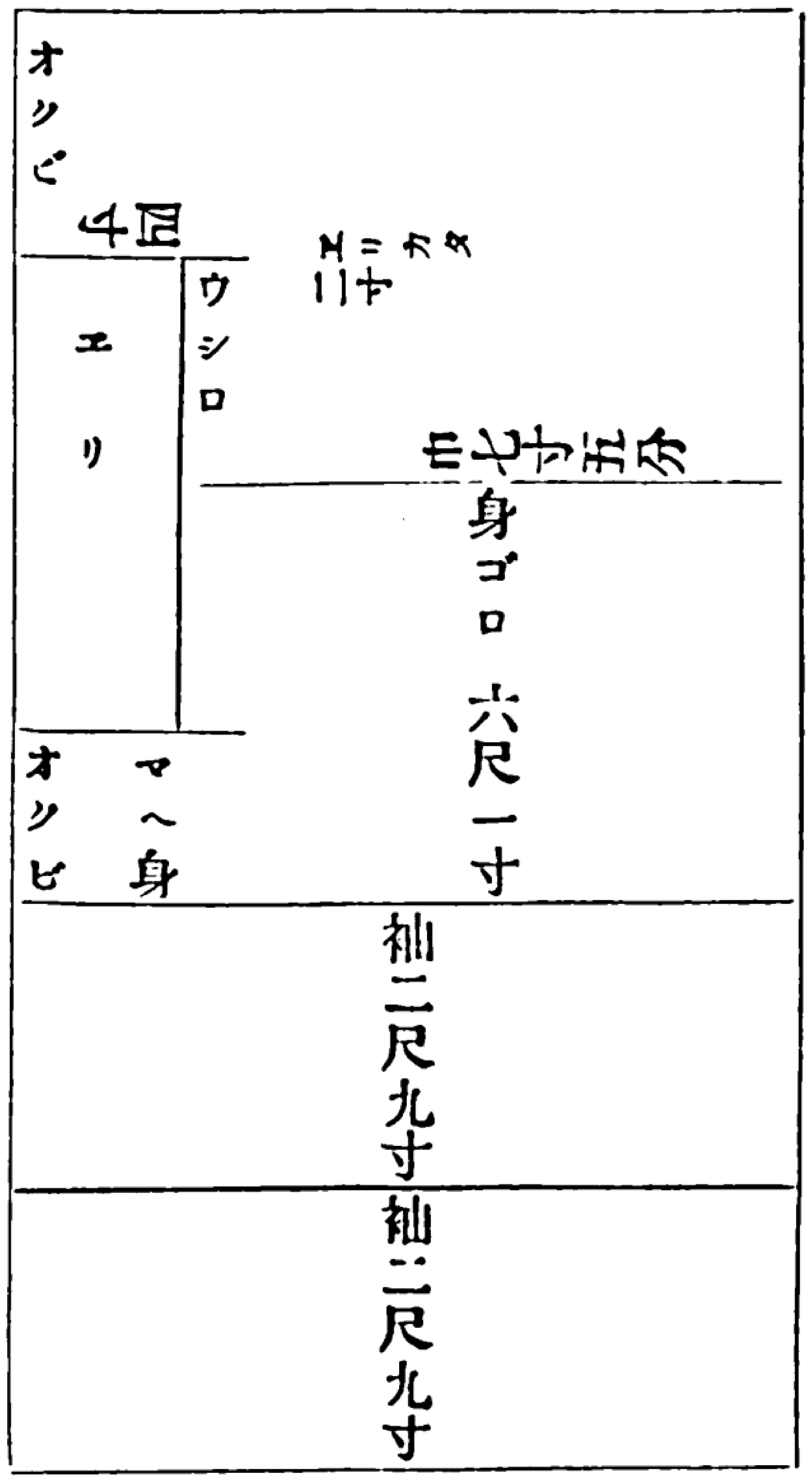
林檎を保藏ひをくにハ乾きたる藁に包ゝみ燥きゝる場所よ置

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

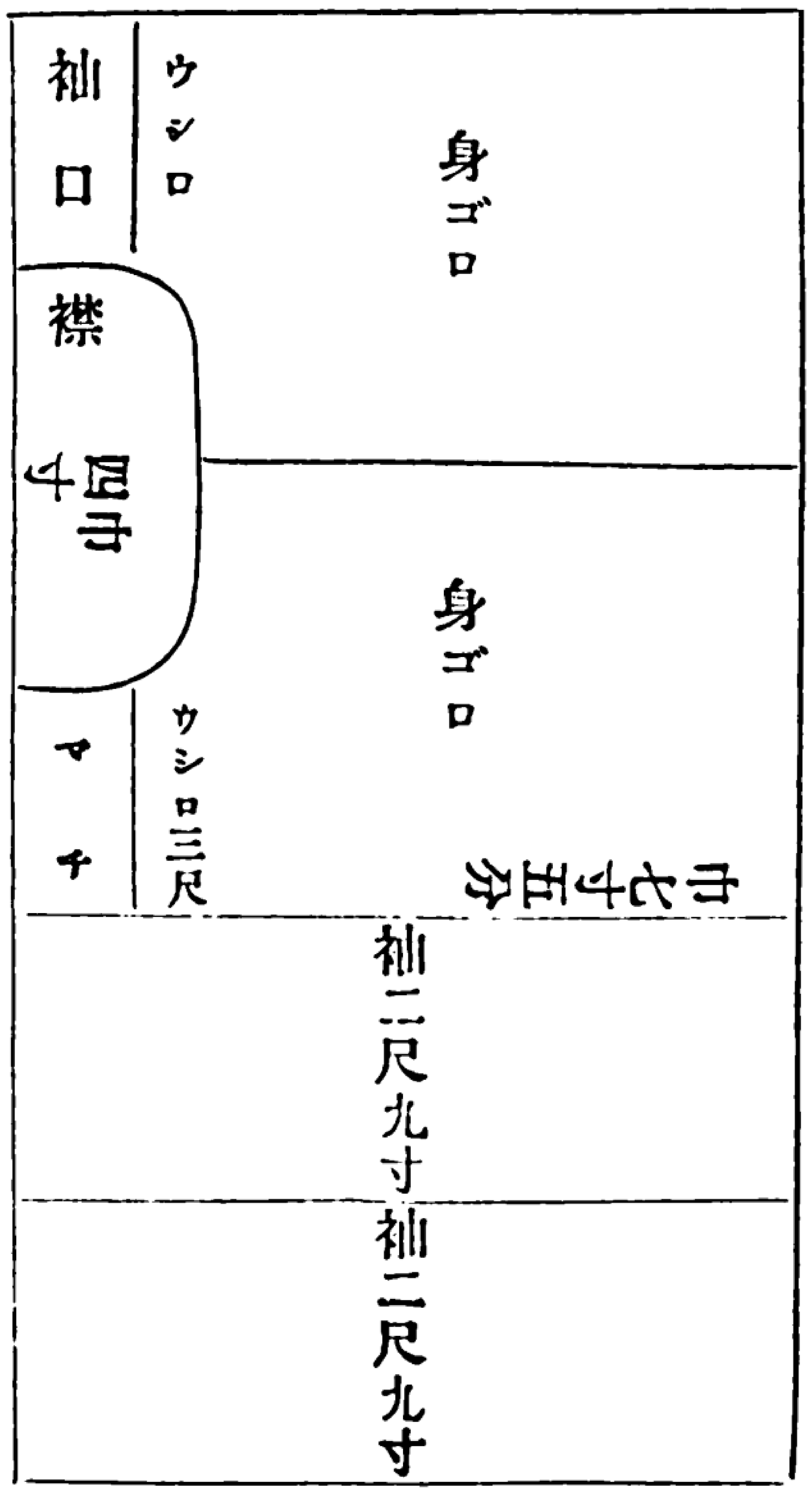
くべし梨子は莖のところを括り釣るしおくべし
大なる食品貯藏場を有せざる家にてハ戸棚を設けおきて食物の入れ場となしおくべし品物によりてハ可成一時に多量を買ひ入るゝを便利とす斤量掛け改めなどの時風袋の相違等に得用をなること少なからず
食物置場ハ可成燥きのよき場所を選び且つ風通しをよくし常に冷かなるを好しとす
如何なる家にても毎月世帯上の入費に定額を定めおきこの額を超えざる樣心掛くべきハ勿論常に節儉して少しにても毎月の定額中より殘り金のあらんことを勉むべしこの殘り金ハ多少を論せず積金となし臺所用諸器物の繕ひ費等に備へ尙ほその殘餘金ハ賄方非常の事に備ふべしこれ賄を司るものゝ常に心得べき第一義なり　(畢)

○裁縫三身仕立揚寸法幷七身裁方仝羽織裁方

三ッ身仕立揚の寸法ハ丈二尺五寸五分裄丈一尺三寸五分身のあき七寸袖付五寸袂下一尺衽下三寸襟丈一尺七寸襟巾一寸袖巾身巾及び衽巾ハ布巾の一ばいに縫ふべし
七ッ身の裁方ハ長一丈八尺巾九寸五分にて丈三尺五寸袖一尺四寸五分圖ハ左の如し



又仝しく羽織の裁方ハ長一丈八尺巾九寸五分にて丈三尺袖一尺四寸五分左に圖を出す



○夏季醬油の黴るを防ぐ法

夏季になれば醬油ハ多く黴を生ずるか故に之を防のんにハ芥子を麻布に包みて樽或ハ罎の中に入れ置く時ハ決して黴を生

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

するとなしと云ふ

○西洋染形附および絹物を洗ふ法

形附（更紗などの類）および絹布を洗濯するには小麥粉の売をこし（小麥の粉にてもよかるべし試みたまへ）を微温湯に入れ可及ちやく洗ひ直ちに冷水に入れまた可成早く洗ひ流して蔭干になし乾かすべし決て石鹸を用ゆべからす

○頭髮を洗ふ水の製法

ツリセリン半オンス迷迭香精半オンスを五オンスの水に混じよく振りて用ゆべし束髮の毛を洗ひ男子の頭（チョンマゲにあらす）を洗ふに最も適用せり

◎御伽草

○鑑定違ひ

某所に何の某と申して訴訟鑑定を生業とする一の先生あり此の頃鑑定事務非常に繁忙なる處ろより法理に至極明らかなりろふな一人の書生を雇ふて半ば之れに委ねたりしに此の書生往々違つたる鑑定をなすを以て斯くては花主も日々に減し我が家業も衰ゆるばかりなれば能く違へぬやう云ひ聞かせ若しまた鑑定の付かぬやうな時には乃公に問糺そべし決して一巳の考へを以て曖昧に鑑定を下し遣はすべからすと嚴しく制し置しも兎角一巳の量簡にて違つた鑑定を下せば今は先生も小癪に障り貴様の如きこんなやさしひものまでよく鑑定のつかぬやうな盲は最早我か家には用なし今日より解雇から何れへなり出ゆくべしと云ひたれば書生は驚きし体もあく哈々と打笑つて先生それは鑑定が違ひませう先生こそ眼があつたらば僕のやうなものは決して雇ひなさるまいに

評書生之一言可レ謂眞是世間無レ眼レ使レ人者之一大針砭

○西洋隱語　下谷　赤松生

余は最も堅固なる性質を具ふると雖も暑氣に遭へば自から飴の如く伸び寒氣に遇ばまた縮まり常に一本の脚を以て数万里の長程に達し人の爲めに吉凶禍福を告け知する便利のものなるも大雪暴風又は叛乱に遭て往々身を害るゝ事あり然とも復人に療治せられて本に復する時は矢張便利をなすものなり

○謎

夜商人とかけて初春の用意と解く其心如何

○第廿一號燈謎謎考物の解當者左の如し（燈謎嶋鯵）芝吉村玉姐岩手縣森山雪姐（謎でもん違ひ）濱松矢部革姐京橋堺美代姐番町鶴田清姐栃木縣塙竹姐靜岡弓削濱姐千葉縣湯本近姐宮城海棠里子姐（考物トクリ）矢部革姐大阪山田末姐弓削濱姐森山雪姐本所山下兼姐鶴田清姐宮城海棠里子姐第廿號（字謎砢、考物クルミ）熊本縣守部康姐麴町小出貞姐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎古今雑話

○九月の蚊帳へ厂金を書き付ると

俗事に九月の蚊帳へハ厂金を書き付るものなりとて紙に書て蚊帳の隅に結び置事あり何の故なるか知れず物理小識に曰く夏月線染て蝙蝠をこしらへ蚊帳に付るハ清朝人か長崎に来りてなせしより始りこれを誤り傳て厂金を付る様になりしと語る人ありしが然ありなんか蝙蝠ハ蚊を好みて餌食とせり又蝙蝠の糞を夜明叉と云ひて眼病内瘴の藥に用ゆ夜明叉ハ則ち蚊の眼玉なり是等の事を思へハ蚊帳に厂金を付るハ全く誤にて蝙蝠こそ蚊の爲にハ大禁物にて蚊を除るの呪法にも成ぬべし

○巨燵

無名抄に長守の歌

火おこさぬ夏のすびつの心ちして人もそさめすすさましの身やとありけれハ其の娘が冬のすびつに火のなきハ今少しすさまじく侍らすやと云ひしとぞ斯れハ巨燵ハ鴨長明の頃にハはや有りしものゝと思れる

○蹈舞會の心得

蹈舞會への招待を受たるときはその案内状を受たる日より二日あるひハ三日の内に返書を送るべし返書にはかならず其案内をなせし家の婦人の名宛にて案内を受たる人の名を記載すべし一般に行はるゝ案内状及び返書の例文は左のごとし

案内状の例文

森本婦人は當三月十一日月曜日に相催ほし候夜會に於て濱本氏御來會の光榮あらんことを相願ひ候

但し蹈舞は九時より相始まり申候

三月一日金曜日

返書の例文

濱本氏は當三月十一日月曜日の夜會へ森本婦人より御丁寧なる御案内を受け樂んで承諾致し候

三月二日土曜日

若し森本婦人より濱本氏を第一の客として案内状の初じめにマイ、デーヤ、ソル(我が愛する君よと云ふ意)と書きたるときは禮法により濱本氏もまたその返書にマイ、デーヤ、マダーム(我が愛する婦人よといふ意)と書かざるを得ず

蹈舞會を催はすには豫め蹈舞者の男女同數ならんことを勉めざるべからず私會などにては婦人の方多數に過ぎ止むを得ず婦人と婦人とにて蹈舞をなすことあり

(以下次號)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎群芳詞苑

○寄香祝　西京　石井みつ子

すめくよの匂ひくはゝるたきもの〻烟やあめの下にみつらむ

○題夏山幽居圖　下毛　子龍　居士

白雲生處動層峯。楊柳垂邊積翠濃。幽居占得畫圖裡。巖間流水響淙々。

○春花國字詩　スッヌの韻　九段　藤田　治子

この葉をとばしえだからす　うきなかゑのびてらへつゝ
のどけきはるにもゝさくら　いとうるわしのはなさきぬ

○同　エケセテチの韻

きゞのこずえハしもがれて　いともさびしきふゆののべ
しばしゑのびてはるの日に　さけよこのはないざひらけ

○後圃脩竹(田居小景記第三)　河内　鉄心居士　橋本

余邸之北隅有閑地。廣十歩許植以竹。漸爲一大叢。將凌雲漢。古人愛竹各不同。余殊愛淸風六月戛々之聲

○閨秀新品

○つゝし　東京　溝口　久子

山姫のさらすころもか香に匂ふくれなゐ染めの岩つゝしはな

○菜花　東京　樫村　瑛子

菜の花や汽車を待間の出張茶屋
菜畑に隣りて居る歟不二のみね

○春日望江　栃木　富田　幸子

万里長江望渺然。畫舫離岸遠達天。白鷗浴水魚高躍。万點紅花皆帶烟

○第廿一號數學答式

$$1:495=\frac{5}{3}:x$$

$$x=\frac{495\times3}{5}=4.57$$

四時五十七分　濱松　矢部　革子
下谷　富安　芳子

又第廿號數學答式を麹町小出貞姐より寄せられたれど略す

○新題

和歌(春雨)　俳句(新聞紙)

詩(聞蛙)五七言律隨意　文(讀常盤傳)和漢文隨意片假名交りハ三百字を限

數學題

譬へハ爰に毎斤十錢の砂糖十六斤ありこれに毎斤十一錢と十五錢との砂糖を加へ毎斤十三錢に價を定んとす然る時ハ各幾斤を和して可なるや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

岩神正矣君編輯「ワシントン」「グランド」二氏石版肖像入
米國前大統領
虞蘭將軍全傳
平假名附前同斷 洋綴美製全一冊定價卅五錢

○世間此形小よして貴重なる者あり實玉是れ也此書小冊子と雖ども將軍が一生の經歴功業を羅述して簡にして要を得たり故に一たび出板して忽ち初板數千部を賣盡し未だ二月ならずして
再版
將軍の榮を得たり凡そ將軍が幼時、出身、浮沈、南北戰爭の紀事軍略、大統領の當撰、政略、失策、世界漫遊、將軍家の落魄并逡逝葬式に至るまで將軍が自著中より抄出せる上よ他の近代史と參考して輯録せる者なれば將軍の一代を知らんと欲せば之に加る實玉なるべし尚は初版に倍して愛顧を乞ふ

● 西森武城君編輯 生徒必携
作文獨稽古
鼇頭いろは分字類
和製中本全一冊 定價貳拾貳錢

● 七條峰太郎君編輯 女子必携
女子作文楷梯
鼇頭作文要用字類
和製中本全一冊 定價貳拾貳錢

從前小學校の生徒に文を教ゆる男女一樣なるの爲めに不都合多きハ教育家の常に患ふる所也然れ共女子作文を教ゆる好書なきか爲めに只た患ふるのミにて之を濟ふ能ハず今此書ハ專ら女生徒よ婉曲にして通ず易き作文を教へ男生徒一樣の不都合なきことを計る爲めよ編著せるものにて作文獨稽古と共に小學教員及び生徒諸君の錦嚢たる書なり

堀内正路著 細圖入白紙摺美本

○千家正流
茶の湯客の心得 再版
全一冊
舊定價四拾錢 改正廉價金卅五錢

此書ハ千家直傳の免許を受たる堀内大人の新著にして先きよ出版致候處江湖の喝釆を博し
再版
仕廉價を以て發賣致しむ幸いに數千部を買り盡し今般茶道を好む諸君ハ一本を備へて千家の奥意を學ぶの捷徑に供し給ふべし

發兌 九春堂
賣捌 文舍

漢馬融撰 日本佐藤楔先生旁釋
○忠經旁釋
木板手刷
正價拾錢
郵税四錢

○明治英名傳
正價金三十錢
郵税共

○人命保險 人間長壽法
正價郵税共三十錢

○清國漫遊誌
正價金四十五錢
郵税自便

東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地
發行所 績文舍
持主兼編輯人 松本義弘
印刷人 初鹿野鋭五郎

女學叢誌賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地 大賣捌所 修正堂
同 神田區淡路町 同 巖々堂
同 神田區佐柄町廿一番地 同 東海堂
同 神田區雉子町 團々社
同 日本橋區新肴町 良明堂
同 牛込肴町十七番地 活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目 高槻堂
同 蠣殼町貳丁目 信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地 盛春堂明田
同 同 本郷春木町貳丁目 解明堂
同 牛込區牛込神樂町 積善舍
大坂府備後町四丁目 岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目 立眞舍
山梨縣甲府常盤町 內藤傳右工門
藝州廣嶋大手町一丁目 早速社
江州彦根西內大工町 新々堂
陸前國仙台大町四丁目 木村文助
越後國長岡裏壹之町 大橋書房
神奈川縣下横須賀旭町 大塚部喜

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY